

暑中お見舞い申し上げます。コチラ惑星ハシグチも暑いですが、緑の山影があるので、冬寒い分、皆様より幾分涼しいかもしれません。この夏の御健康を祈念します。

EVENT 六月

- 1日…世知原じげもん市(隣町で開催された物産展)母と東京から帰省していた姉と初めて行ってみる。
- 16日…家前道路拡張工事準備経過報告会(集会所)母、私出席。
- 20日…吉田康治様母葬儀(86才)母出席。(吉田邸)
- 26日…五蔵岳生産森林組合総会(橋川内公民館)母出席。
- 7日…古川寺総会 母出席。
- 11日…農産組合会 母出席(私福岡)
- 17日…御施餓鬼「おせがき」(古川寺)母出席。
- 20日…御灯夜「おとや」(八天)

七月

様々御宮 夜七時〜私出席。

PICK UP

「御灯夜」(おとや)に初めて参加してみる

「御灯夜」という美しい言葉の行事は、毎年七月二十日の夜、夏の田圃に虫が来ないように祈禱する集まりだ。場所は、一月に「八天講」があった、「田舎通信」0号参照)惑星ハシグチ南東端の「八天様」ここで夕方七時から。

昼間の暑さもようやく治まり始める夕間暮に行くと、例によって肝煎りの長老の方が祠の前の参道を掃除しておられる。蚊捕り線香がまるで結界のように四方に設置されている。一月と同じ、隣町、弦掛(つるか)観音の僧が来る頃には橋口村の主だった人々も集まって来る。「今日はぬつかったですなあ〜」どちらかという、豪放磊落な坊さんは村の皆さんにそういつて軽く挨拶しつつ、祠の前に座し蠟燭の灯をつけた後、徐に祝詞が始まる。真夏の杜の夕暮れは周り中から蝸蟬の蝉時雨。それも時雨なんてもものじやなく、豪雨に近い。その間隙を縫って祈禱の真言が波のように聴こえるといった感じだ。

貴方は360度蟬時雨、いや蟬豪雨の中に、小一時間じつと佇んだ事がありますか？それは例えば、現代音楽ミニマルミュージックの

雄、ステイヴ・ライヒの音楽をサラウンド音響で聴いている感じ。いやそれ以上の反復波状音の世界だ。それに、線香の煙りとその匂い。これって野外レイヴトランスパーティー？

ホビ族やナバホ族等、北米ネイティブアメリカンの間では、燻し煙りは魔を払い精霊と交信する重要な役割を担うという。

厳寒の一月、朝霧の中での祈禱といい、真夏の夕暮れ蟬時雨、燻し煙りの中の祈禱といい、自然の装置を上手く祭礼の空間に導入しているなと感心する。いや待てよ、そうではない！元々そういう自然祭礼とは、そこにあるアニミズム的全自然を確信を持って取り込んで行われていたはずだ。何故ならそこには自然と交信出来る、シャーマンが必ずいたであろうから。今の時代の私共はその秘儀(アートの)を忘れ、懐かしい記憶の気配だけを感じているのかもしれない。

こんな私の思惑などに関係なく気がつくくと祝詞は終わり、人々はとつと村のお宮に集まり酒宴をやり始める。私も少し参加。酒宴は今年、アル中の村人が欠席されたせい、か、実に和やかだったよう。やれやれ。

INTERVIEW

初来訪者K氏の

惑星ハシグチ〜吉井町幻視行

『惑星ハシグチ〜吉井町幻視行』は個人情報保護により掲載を見合わせました。(090901)。